

平成22年度 病害虫発生予報 第10号の発表について

向こう 1 か月の主要な病害虫の発生予察情報については、以下のとおりです。

- ・ これから育苗が始まる水稲においては、塩水選、種子消毒を的確に実施し、健全な苗を育成することに努めてください。
なお、昨年、セジロウンカによって媒介されるウイルス病であるイネ南方黒すじ萎縮病（仮称）の発生が、中国及び九州の 8 県から発表されました。このため、セジロウンカの防除については、吸汁による被害だけでなく、ウイルス病を媒介することについても注意を払う必要があります。セジロウンカの被害が問題となる地域では、育苗段階からセジロウンカに効果の高い薬剤を選択してください。
- ・ 果樹や茶などでは、病害虫の越冬量及び越冬密度を低下させ、翌春の病害虫の発生を抑制するために、病害対策として、罹病枝葉の除去及び病斑部の削り取り並びに虫害対策として、粗皮削りやマシン油散布等の園の適切な管理に努めてください。

病害虫防除に関する留意点

- ・ 病害虫防除を効果的に実施するためには、病害虫の発生状況を的確に把握し、適期の防除につなげることが大切です。病害虫の発生は天候の影響を大きく受けるので、天候の状況に注意しつつ、都道府県病害虫防除所が発表する発生予察情報に基づき、地域ごとの防除基準に従って防除を実施してください。
- ・ なお、薬剤防除を実施する場合には、都道府県病害虫防除所の情報を参考に、薬剤抵抗性を獲得した病害虫が確認されていることに留意の上、適切な薬剤を選択するとともに、病害虫が薬剤抵抗性を獲得しないように、同一系統薬剤の連続使用を避けてください。また、農薬の使用基準を遵守し、薬剤散布の時期に留意するとともに、散布対象外の農作物等に農薬が飛散しないよう対策を講じてください。

野菜・花き

露地栽培

- ・ 1 か月予報（2 月 11 日気象庁発表）では、平年より平均気温が高いと予報されており、病害虫の発生に注意が必要です。
- ・ ほ場観察を行い病害虫の早期発見に努め、適期に薬剤防除を実施してください。

施設栽培

- ・ 冬期間は、施設栽培で夜間加温が行われることから、施設内は外気温よりも高く管理され、病害虫が発生しやすい環境となります。
- ・ 施設内が過湿になると病害の発生が助長されるので、施設周辺に排水路を整備して、雨水が施設内に入らないように留意するとともに、作物の株間の通風を図る等、施設内が過湿にならないように管理してください。また、病害の早期発見に努め、伝染源となる罹病葉や罹病果は除去し、適期に薬剤防除を実施してください。
- ・ アザミウマ類、コナジラミ類等の施設内への侵入及び野外への飛び出しを防止するため、施設の開口部に防虫ネット等を設置するなどの対策を実施してください。また、アザミウマ類、コナジラミ類等の防除は、これらが媒介するウイルス病対策としても有効です。害虫の早期発見に努め、発生初期での薬剤防除を実施してください。これらの害虫の発生源となる施設内及び周辺の雑草を定期的に除去するよう努めてください。
- ・ また、栽培終了後は蒸し込み処理等を行い、作物残渣での生存虫を死滅させてから搬出し、確実に処分してください。

発生が多い・やや多いと予想される病害虫及び地域

作物名／病害虫名	発生が「多い」地域	発生が「やや多い」地域
トマト		
疫病		南九州
灰色かび病	北関東	東海、九州
ハモグリバエ類		北九州
コナジラミ類		南関東
なす		
アザミウマ類	東海、北九州	
コナジラミ類	四国	
ピーマン		
うどんこ病		北関東、南九州
アザミウマ類		南九州
アブラムシ類	四国	
コナジラミ類	四国	
きゅうり		
うどんこ病	四国、九州	沖縄
褐斑病	四国	沖縄
灰色かび病		北関東

べと病		東海
アザミウマ類	関東	九州
たまねぎ		
白色疫病		東海、四国、北九州
レタス		
灰色かび病		北九州
菌核病	沖縄	南関東、北九州
いちご		
うどんこ病		四国
炭そ病		南九州
灰色かび病	四国	北関東
アザミウマ類		東海
アブラムシ類		関東、四国
コナジラミ類		東海
ハダニ類	関東、東海	近畿、九州
きく		
アザミウマ類		北関東
ハダニ類		南九州
ハモグリバエ類		南九州

果樹・茶

果樹

- ・ 果樹の病虫害を効率的に防除するには、園内の伝染源を取り除くとともに、萌芽前後や新梢伸長期の薬剤防除が重要です。
- ・ 一次伝染源となる罹病落葉や罹病枝葉の除去、枝幹病患部の削り取りを行い、萌芽前後からの早期防除による初期感染防止を行い、適切な管理を実施してください。
- ・ また、大雪による枝折れ等の損傷部については、傷口に薬剤を塗布する等の適切な処理を実施してください。
- ・ 害虫対策として、昨年ハダニ類やカイガラムシ類の発生が多かった園では、越冬量を減少させるため、粗皮削りやマシン油剤散布等による適切な管理を実施してください。

茶

- ・ 赤焼病の常発園では、早期発見に努め、適切な薬剤防除を実施してください。

- ・ また、カンザワハダニの発生状況をよく観察し、多発が予想される園では一番茶前の防除を実施してください。

都道府県が発表した警報、注意報及び特殊報

平成 22 年 11 月 11 日以降、都道府県が発表している警報、注意報及び特殊報は下記のとおりです。

警報

重要な病害虫が大発生することが予測され、かつ、早急に防除措置を講ずる必要が認められる場合に発表します。

発表実績なし。

注意報

警報を発表する程ではないが、重要な病害虫が多発することが予測され、かつ、早めに防除措置を講じる必要が認められる場合に発表します。

発表日	都道府県名	作物名	病害虫名
平成 22 年 12 月 28 日	沖縄県	トウガラシ類、ナス、トマト、ピーマン等	ナスミバエ
平成 23 年 1 月 25 日	宮崎県	ピーマン	斑点病

特殊報

新奇な病害虫を発見した場合又は重要な病害虫の発生動向に特異な現象が認められた場合に発表します。

発表日	都道府県名	作物名	病害虫名
平成 22 年 11 月 11 日	福岡県	水稻	イネ南方黒すじ萎縮病（仮称）
平成 22 年 11 月 12 日	千葉県	水稻	ミナミアオカメムシ
平成 22 年 11 月 16 日	京都府	水稻	ミナミアオカメムシ
平成 22 年 11 月 16 日	長崎県	ばれいしょ	トビイロシワアリ
平成 22 年 11 月 19 日	徳島県	ほうれんそう	ハウレンソウベと病（レース 8）
平成 22 年 11 月 24 日	茨城県	さつまいも	アワダチソウグンバイ
平成 22 年 11 月 25 日	宮城県	ブルーベリー	ブルーベリー赤色斑点病
平成 22 年 11 月 29 日	長崎県	いちご	チビクロバネキノコバエ
平成 22 年 11 月 30 日	福島県	ユキヤナギ	ユキヤナギハマキフシダニ
平成 22 年 12 月 1 日	長野県	レタス	レタスヒゲナガアブラムシ

平成 22 年 12 月 1 日	長野県	レタス	レタス根腐病（レース 3）
平成 22 年 12 月 3 日	岐阜県	ほうれんそう	ハウレンソウベと病（レース 8）
平成 22 年 12 月 9 日	宮城県	トマト	トマトすすかび病
平成 22 年 12 月 13 日	愛媛県	マンゴウ	チャノキイロアザミウマ
平成 22 年 12 月 14 日	山口県	きく	キク茎えそ病
平成 22 年 12 月 14 日	長野県	ブルーベリー	ブルーベリー白紋羽病（仮称）
平成 22 年 12 月 21 日	埼玉県	トルコキキョウ	トルコキキョウ葉巻病
平成 22 年 12 月 22 日	埼玉県	トマト	トマトすすかび病
平成 22 年 12 月 28 日	沖縄県	なす	ミツコビナミハダニ
平成 23 年 1 月 7 日	栃木県	日本なし	ナシシンクイタマバエ
平成 23 年 1 月 7 日	愛媛県	キウイフルーツ	キクビスカシバ
平成 23 年 1 月 11 日	栃木県	トルコキキョウ	トルコキキョウ葉巻病
平成 23 年 1 月 14 日	岐阜県	いちじく	イチジクヒトリモドキ
平成 23 年 1 月 19 日	長野県	セルリー	セルリー萎縮炭疽病（仮称）
平成 23 年 1 月 19 日	長野県	レタス、セルリー 一等の葉洋菜類	ニセタマナヤガ
平成 23 年 1 月 26 日	宮城県	ブルーベリー	ブルーベリーバルデンシア葉枯 病
平成 23 年 1 月 31 日	山梨県	ブルーベリー	ブルーベリー赤色斑点病（仮称）

用語解説

地域

- ・ 北海道：北海道
- ・ 東北：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
 - 北東北：青森県、岩手県、秋田県
 - 南東北：宮城県、山形県、福島県
- ・ 関東：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
 - 北関東：茨城県、栃木県、群馬県
 - 南関東：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
- ・ 甲信：山梨県、長野県
- ・ 北陸：新潟県、富山県、石川県、福井県
- ・ 東海：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

- ・ 近畿：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
- ・ 中国：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
- ・ 四国：徳島県、香川県、愛媛県、高知県
- ・ 九州：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県

北九州：福岡県、佐賀県、長崎県、大分県

南九州：熊本県、宮崎県、鹿児島県

- ・ 沖縄：沖縄県

■ 発生量（程度）

- ・ 多い（高い）：やや多いの外側 10%の度数の入る幅
- ・ やや多い（やや高い）：平年並の外側 20%の度数の入る幅
- ・ 平年並：平年値を中心として 40%の度数の入る幅
- ・ やや少ない（やや低い）：平年並の外側 20%の度数の入る幅
- ・ 少ない（低い）：やや少ないの外側 10%の度数の入る幅

（平年値は過去 10 年間の平均）

■ 平成 22 年度病虫害発生予報の発表予定

第 1 号：4 月 22 日（木曜日）

第 2 号：5 月 20 日（木曜日）

第 3 号：6 月 17 日（木曜日）

第 4 号：7 月 8 日（木曜日）

第 5 号：7 月 22 日（木曜日）

第 6 号：8 月 12 日（木曜日）

第 7 号：9 月 9 日（木曜日）

第 8 号：10 月 7 日（木曜日）

第 9 号：11 月 11 日（木曜日）

第 10 号：2 月 17 日（木曜日）

お問い合わせ先

消費・安全局植物防疫課

担当者：防除班・黒谷、金武

代表：03-3502-8111（内線 4562）

ダイヤルイン：03-3502-3382

FAX：03-3502-3386

当資料のホームページ掲載 URL

<http://www.maff.go.jp/j/press/>